

刊行によせて

学校法人神奈川大学では、創立百周年を迎えるにあたり、神奈川大学百年史編纂委員会の下で『神奈川大学百年史』の編纂を進めてきましたが、これまでの歴史資料をまとめた「資料編」、「資料編」をもとに歴史を叙述する「通史編」をそれぞれ二編に分けて制作することとし、この度『資料編Ⅰ』の刊行の運びとなりました。

神奈川大学の百年の始まりは、米田吉盛先生が一九二八（昭和三）年、横浜桜木町のビルの一部を借りて神奈川大学の礎となる横浜学院を開設することから始まり、翌年、横浜市西区境之谷（当時は中区西戸部町富士塚）に移転し、横浜専門学校となりました。更に、一九三〇（昭和五）年に六角橋へ移転し、キャンパスの拡張を図り、総合専門学校を目指して移転を完了した五月十五日を創立記念日に設定しました。

創立された後も戦争や大学紛争、近年に起きた大規模自然災害や未曾有のパンデミックに加え混迷する政治・経済等、激変する社会情勢の中に在りながら、高等教育機関として建学の精神のもと「教育は人を造るにあり」により、私達は時代と社会の「課題や使命」を地球的視野に立って深く自覚するとともに「自律の精神」と「共生の視点」から、主体的な「新たな価値を創造する人材」を育成してまいりました。

横浜学院開設の地からほど近いみなとみらい地区に開設したみなとみらいキャンパスは「人との

交流・文化の融和」、「知識と実践の循環」、「教育と研究の融合」による、二十一世紀の「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題解決ならびに世界に発信する新たな時代にふさわしい「人材の育成」および「知の拠点」となるキャンパスとして、地域社会と共に発展するために、大きな意味をもつと考えています。

六角橋の「横浜キャンパス」、開設地に近い「みなとみらいキャンパス」、そして附属中・高等学校を置く「中山キャンパス」と全て「横浜」に集結し、横浜の総合大学として新たな歴史を刻み始め、キャンパス新総合計画の推進により、学生・生徒数は附属中・高等学校を含め約二万人、各界で活躍する卒業生約二十五万人を輩出するに至っています。

「歴史は物語であり、全ての物語の中で最も重要なものである」という言葉のとおり、神奈川大学が歩んだ百年の歴史をご覧いただき、学校法人神奈川大学の過去から現在、それを踏まえた将来の発展をご期待いただければ幸いです。なお、今後『通史編Ⅰ』『資料編Ⅱ』『通史編Ⅱ』と続き、二〇三〇（令和十二）年の『索引・年表編』で完結する予定です。

最後になりましたが、本誌の刊行にあたりご協力を賜りました多くの関係者や諸機関の方々からお礼申し上げます。

二〇二四（令和六）年三月

学校法人神奈川大学理事長 石渡 卓